

全てのステークホルダーの皆様へ

創業150周年を迎えた伊藤忠商事は、連綿と受け継いできた「三方よし」の考え方と、変化をチャンスに変える「チャレンジ精神」を継承していくとともに、更なる「世界人材の育成」を推進していき、「世界企業」に向けて、一步一步確実に歩みを進めていきます。

創業150周年を迎えて

2008年、伊藤忠商事は創業150周年という歴史的な節目を迎えました。これもひとえに皆様のご支援とご高配の賜物と厚く御礼申し上げます。

150年に及ぶ当社の長い企業活動の根本にある哲学は、創業者である伊藤忠兵衛の出自である近江商人特有の経営哲学「三方よし」です。その「売り手よし、買い手よし、世間よし」という言葉には、事業の存続・発展のためには、自社の利益だけではなく、広く社会の期待に応え続けることが欠かせないという、現在のCSRに相当する価値観が込められています。1992年には、これを原型に企業理念「Committed to the global good. ～豊かさを担う責任～」を定め、世界75カ国で事業展開を行うグローバルITOCHUとして果たすべき社会的責任を明確化するとともに、グループの持続的発展と持続可能な社会の実現に向けた取組を進めています。

今、「世界企業」へ向けた新たな挑戦へ

当社は150年の歴史の中で幾度もの大きな環境変化に直面してきました。そのたびに、時代の変革をチャンスと捉え、常に新しいビジネスの創造に挑戦してきました。伊藤忠商事の歴史は、まさに「挑み続けた150年」といえます。そして今、私たちの挑戦は新たなステージを迎えています。

伊藤忠商事は、2008年3月期よりスタートした中期経営計画「Frontier+ 2008 ～世界企業を目指し、挑む～」において、「世界視点」「新たに創る」「人材力を磨く」の3つの視点で収益規模の飛躍的拡大に向けた「攻め」を加速しています。そして計画で定めた伊藤忠商事の未来像「全てのステークホルダーにとって魅力溢れる世界企業」の実現に向けて、グローバルに収益を上げる事業構造の構築と、その基盤となる「世界人材」の育成を推し進めています。



順調な進捗を得た計画初年度

計画初年度である2008年3月期、当社は、当初目標の連結純利益2,100億円を上回る2,186億円を達成するとともに、4期連続となる過去最高益を更新することができました。資源価格高騰という追い風があったことも事実です。しかしながら、全営業セグメントで100億円以上の黒字を達成し、日米住宅関連市場低迷の影響を受けた生活資材・化学品を除く全セグメントが増益となった実績が示すとおり、グループ全体で「稼ぐ力」が確実に強化されていることに自信を深めています。その一方、当期は約2,500億円を生活消費関連分野、資源エネルギー分野、その他の分野（自動車関連・情報産業・金融・化学品等）に機動的に投資するなど、更なる成長へ向けた布石も確実に打ちました。なかでも当社の未来を支える収益源として育成しているL-I-N-E-sに約200億円を投資、計画の重要施策のひとつである「新規事業領域の開拓」は順調な進捗を得ています。また、当期はニューヨーク、ロンドン、上海、シンガポールに世界人材・開発センターを設置するなど、最重要施策と位置付ける「世界人材」の育成に向けた基盤整備でも大きく前進を果たすことができました。

次の150年を見据えて

伊藤忠商事は、「Frontier+ 2008」初年度で確かな成果を得ることができています。しかし、現在はまだ私たちが計画の先に見据えるビジョンの実現に向けた第一歩を踏み出したに過ぎません。変化の潮流を的確に読み取り、変化に正面から挑むことで、新たなビジネスを創造していくこと。これが、当社の持続的成長にとって必要なことであり、過去150年間の発展を支えてきたDNAでもあります。そして、世界中で認められる「世界企業」を目指す当社にとってなによりも重要なことは、多様な人材、世界視点を持った人材を育てていくことです。このことを強く認識するとともに、創業150周年を機に、当社の企業理念「Committed to the global good. ～豊かさを担う責任～」を今一度見つめ直すことで、次の150年を見据えた取組を進めていく所存です。

ステークホルダーの皆様におかれましては、引続き倍旧のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

2008年7月

代表取締役社長

小林 栄三